

平成 13 年 10 月 23 日

国際石油開発(株)(インペックス)  
東京都渋谷区恵比寿 4 丁目 1 番 18 号  
代表取締役社長 松尾 邦彦

カザフスタン共和国 北カスピ海鉦区 評価第 1 井(KE-2)のテスト結果について

国際石油開発株式会社（インペックス）は、同社子会社インペックス北カスピ海石油㈱を通じて探鉦事業を推進しているカザフスタン共和国 北カスピ海鉦区において、2001 年 5 月よりカシャガン構造の東部に評価第 1 井「カシャガン・イースト-2 号」(Kashagan East-2) による掘削作業を行なっていたが、同井を掘止め後、実施した物理検層により炭化水素の賦存を確認し、また貯留層より採取したコア（地質サンプル）の分析の結果、高い生産性を示唆する良好な孔隙率や浸透率を検知した。

今般、産出テストを実施した結果、日産 7,400 バレルの原油の産出を確認した。

なお、このテストの産出量はオペレーション作業上の制約と環境規制により、抑制されたものとなっている。

カシャガン構造では、既に昨年 7 月、同構造東部の試掘第 1 井「カシャガン・イースト-1 号」(Kashagan East-1)、また本年 5 月、同構造西部の試掘第 2 井「カシャガン・ウエスト-1 号」(Kashagan West-1)で、それぞれ原油を発見しているが、本坑井は同構造に対する最初の評価井であり、カシャガン・イースト-1 号から 8km 離れたロケーションで掘削した。

本プロジェクトは、当社を含む日米欧 9 社の国際コンソーシアムがカザフスタン共和国と締結した生産分与契約にもとづき推進している探鉦・開発事業である。

本評価第 1 井の結果により同構造において相当量の原油の賦存が確実に became と評価され、今後引き続き同構造に対する評価作業を推進していく計画である。

※) 補足説明

1.北カスピ海鉦区は、東部約 4,300km<sup>2</sup>、西部約 1,275k m<sup>2</sup>（合計約 5,575k m<sup>2</sup>）の 2 つのブロックよりなり、カシャガン構造は、カザフスタン共和国アティラウから南東約 75km のカスピ海域に位置する水深 3～7m の東部ブロックにある。

2.本鉱区には、石油・ガスを胚胎する可能性の高い複数の大規模な構造が存在しているが、その中でも最大規模のカシャガン構造の東部で試掘第1井「カシャガン・イースト-1号」(Kashagan East-1)の掘削を行い、2000年7月に同坑井で産出テストを実施した結果、日産3,774バレルの原油並びに日産706万立方フィートの天然ガスの産出を確認した。

3.引き続き、同構造西部にて、試掘第1井から40km離れたロケーションで試掘第2井「カシャガン・ウエスト-1号」(Kashagan West-1)の掘削を行い、2001年5月に産出テストを実施した結果、日産3,397バレルの原油並びに日産759万立方フィートの天然ガスの産出を確認した。

4.評価第1井「カシャガン・イースト-2号」(Kashagan East-2)は、水深4.2mの地点で掘削され、掘削深度4,142mで掘り止めた。産出テストを実施した結果、34/64インチチョークで日産7,400バレルの原油の産出を確認した。

5.国際石油開発(株)(インペックス)(本年9月1日付にて社名をインドネシア石油(株)より国際石油開発(株)に変更)は、1998年9月に本鉱区の権益の1/14をカザフスタンの国営石油会社KCS(Kazakhstan Caspi Shelf)社から弊社の子会社であるインペックス北カスピ海石油(株)を通じて取得し、欧米コンソーシアム(ENI:オペレーター、British Gas、BP、ExxonMobil、Phillips Petroleum、Shell、Statoil、TOTALFINAELF)の一員となった。

6.インペックス北カスピ海石油(株)は、1998年8月に設立され、石油公団の投融資を受けるとともに、石油資源開発(株)および三菱商事(株)からの出資を受けている。(現在の資本金は、258億円、出資比率は、石油公団:50%、インペックス:45%、石油資源開発および三菱商事:各2.5%)

